

まえがき

『ICU日本語教育研究』第1号をお届けいたします。

今回の紀要は、『ICU日本語教育研究センター紀要』と『ICU夏期日本語教育論集』の統合誌となります。今まで、『ICU日本語教育研究センター紀要』に掲載されていた研究論文、報告、所員の研究活動報告等と共に、『ICU夏期日本語教育論集』に掲載されていたサマーコースの報告を合わせて刊行することとなりました。昨年は、ICUにおける日本語教育50周年となりましたが、その節目に新たな紀要を刊行できることは大きな喜びです。

ご覧のように、表紙のデザインと紀要の題名も新しくなりました。現在、センター職務の大きな部分を占めている夏期日本語教育（サマーコース）のカリキュラムや運営に関して、様々な改革が進行されております。私どもは、その質の向上・充実を目指してさらに努力を続けて行きたいと存じます。また、日本語の授業を向上させて行くための研究例会、日本語教育関係者ICU卒業生のネットワーク作り、サービス・ラーニングとの連携等、新たな企画も計画しております。内容面における充実も今後とも図っていきたく存じます。

2004年度のサマーコースには、世界各国から122名の受講生が参加しました。そして、その運営に当たっては、学長、学務副学長、総務副学長、および本学の各担当部署をはじめ、ディレクター・根津真知子（センター長兼務）、教務主任・尾崎久美子、文化プログラム主任・林千代、事務主任・山崎みゆきが担当しました。実際に授業を担当なされた先生方、ホストファミリーの皆様、ボランティアとして参加して下さったICU生・地域の方々に深く感謝申し上げます。

これからも、皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2005年3月7日

日本語教育研究センター長

佐藤 豊